三鷹市立第五中学校　令和8年度【美術】授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	○ポスターカラーの使い方やトレーシングペーパーの活用方法など、基本的な技能の習得に重点を置き、表現の幅を広げるための基礎づくりを心掛けた。また、色の整理の学習において、機械的な着色作業で終わらないよう、伝統色をとり上げ、なじみのない色名からその色を想像するなど、発想力を高めることを目的とした題材を工夫することができた。	○造形的な創作活動の中で、技能習得をしながら発想を広げ、意欲的に制作に取り組んでいる生徒が多い。 ○ポスターカラーの扱い方については、全体的に指示をよく守り、正しく丁寧に着色しようとする姿勢が見られる。また、レタリングをはじめ、基本的な約束事が徐々に身に付いてきている生徒が多い。 ◎熱心に活動する生徒が多いが、家庭学習に課題があるケースが多いので、個々に働きかける。	◎机間指導による個別指導を重視し、基本的な約束事が疎かになっている生徒への支援を十分に行う。 ◎ポスターカラーの扱い方については、色の整理の学習を中心とする。発想・構想の要素を取り入れた題材をより多く設定することにより、興味・関心を高め、集中力が持続するようにする。また、技能に関して、より分かりやすく理解させるため、混色の仕方、着色方法など、学習過程の要所となるところで実物投影機を活用する。 ○教材・教具の使い方を指導を徹底する。 ○授業の始業、終了の時間を守らせ、出席確認を確実に行う。 ◎自分の表現意図や制作中に気付いたことなどを言葉で表す習慣を付ける。具体例として、トレーシングペーパーの使い方では、体験した作業内容を自分の言葉で記述させる。
第2学年	○集中力を持続させ、楽しく創作活動に取り組めるようにするため、制作段階ごとの評価やワークシートに工夫を凝らすことができた。 ○個別指導を重視し、基本的な約束事が疎かになっている生徒への支援を徹底することにより、ポスターカラーの使い方などの基本的技能を身に付けることができた。	○授業に意欲的な生徒が多く、興味・関心が高い。全体的に落ち着いた雰囲気で制作活動に取り組むことができる。 ○透視図法の基本練習など、比較的発想力を必要としない学習は得意だが、基礎的な技能を基盤に発想を広げる活動を苦手とする生徒が多い。 ○１年次には徹底していた基本的な事項（ポスターカラーの扱い方など）が疎かになっている生徒が若干いる。	◎鑑賞題材をより充実させ、美術に対する意欲・関心をさらに高め、表現の幅を広げられるようにする。 ○透視図法の学習において、段階を追って技能が習得できるようワークシートに工夫を凝らすことができたが、授業時数削減により発想や構想の要素を取り入れた内容を省略するなど、効率的な指導を心がける。 ○ポスターカラーの扱い方など、基本的な技能を根気よく指導し、作品の完成度を高めようと努力する姿勢を身に付けさせる。 ○透視図法の練習など、基本技能の習得の段階で、互いに教え合う活動を取り入れる。 ○案を練る段階で思いついたことや考えたことなどを言葉で記録させ、発想の手がかりとさせる。 ◎自分の表現意図や制作中に気付いたこと、他の生徒の作品についての感想などを言葉で表す習慣を付ける。
第3学年	○参考作品・優秀作品提示や、意見交換活動を取り入れることにより、レタリング、透視図法の技能や、水墨画の技法などの理解が深まった。 ○思いついたことや考えたことなどを言語化させることを通して、発想力や構想力が深まるようになった。	○全体的に美術に対する興味・関心が高く、向上心をもって創作活動に取り組むことができる。 ○ほとんどの生徒が忍耐強く制作取り組むことができるが、発想や構想をふくらませることを苦手とし、思うように制作が進まず、自分自身に自信がもてない生徒が多い。 ◎決断力が高まり、個々の制作スピードが早まっている。	○机間指導により、発想や構想の段階で行き詰る生徒に十分に個別指導を行う。 ◎評価の一部に個人内評価を取り入れ、よい部分を積極的に褒め、自信をもって制作に取り組めるよう促す。 ◎自分の表現意図や制作中に気付いたこと、他の生徒の作品についての感想などを言葉で表す習慣を付ける。 ◎学習内容の要点や、制作の見通しを考えながら学習に取り組む。 ◎カリキュラムマネジメントを行い、総合的な学習の時間と相互に日本文化について深く学ばせる。 ◎相互鑑賞の活動をさらに重視し、生徒同士が互いの表現意図を伝え合ったり、よいところを認め合えるようにする。